

第9 非常用の進入口

1 設置対象

- (1) 平均地盤面が異なることによって建築物の同一階が、部分によって階数が異なり、当該階の一部が3階以上の階である場合は、当該階を3階以上の階として建基政令第126条の6に定める非常用の進入口（以下「進入口」という。）を設けること。◆
- (2) 病院、ホテル、福祉施設等の就寝施設を有するものは、非常用エレベーターを設けた場合にあっても、31m以下の階には進入口を設けること。

2 道又は道に通じる通路等

建基政令第126条の6第2号及び第126条の7第1号に定める「道又は道に通じる幅員4m以上の通路その他の空地」は次によること。

- (1) 道は、幅員4m未満のものを含むものであること。◆
- (2) 道に面する外壁面及び道に通じる幅員4m以上の通路その他の空地に面する外壁面を有する建築物には、消防活動の目的から両方の外壁面に開口部を設けること。
- (3) 庭園、屋外駐車場等は、通路その他の空地に含まれるものであること。◆
- (4) 通路その他の空地は、軟弱地盤、樹木、階段状通路、塀等の進入障害又は外壁後退による架梯障害にかかわらず通路、空地等に含まれるものであること。◆
- (5) 公園その他の広場が存するものであっても、当該建築物の敷地でない場合は、通路その他の空地に含まれないものであること。◆
- (6) 幅員4m以上の通路によって道に通じている建築物の中庭は、当該中庭が通路その他の空地に含まれるものであること。◆

3 代替開口部

建基政令第126条の6第2号に定める「窓その他の開口部」（以下「代替開口部」という。）は次によること。

- (1) 床面からの高さは、消防活動上支障のない高さであること。
なお、消防活動上支障ない高さは、おおむね1.2m以下であること。◆
- (2) 窓に手すり等を設ける場合は、手すりから上部の部分を窓の有効面積とすること。◆
- (3) 代替開口部は、進入口と併設することができるものであること。この場合、代替開口部と進入口の間隔は25m以下とすること。◆
- (4) 次の構造の開口部は、代替開口部として扱えるものとする。◆
 - ア 屋外から開放できる窓等
 - イ 破壊が容易な普通板ガラス、フロート板ガラス、磨き板ガラス、型板ガラス、熱線吸収板ガラス又は熱線反射ガラス入り窓等（ガラスの厚さが8mm以下のもの）

- の（厚さが6mmを超えるものは、ガラスの大きさがおおむね2㎡以下かつガラスの天端の高さが、設置されている階の床から2m以下のものに限る。））
- ウ 破壊が容易な強化ガラス又は耐熱板ガラス入り窓等（ガラスの厚さが5mm以下のもの）
- エ 網入板ガラス又は線入板ガラス入り窓で当該ガラスを一部破壊することにより、外部から開放することができるもの（ガラスの厚さが6.8mm以下のもの）
- オ エ以外の網入板ガラス又は線入板ガラス入り窓で、当該ガラスを一部破壊することにより外部から開放することができるもののうち、バルコニー又は屋上広場等の破壊作業のできる足場が設けられているもの（ガラスの厚さが10mm以下のもの）
- カ 合わせガラス（JIS R 3205）入り窓等で、当該ガラスを一部破壊することにより外部から開放することができ、窓に設置される鍵（クレセント錠又は補助錠をいう。）は2以下で、別個の鍵を用いたり暗証番号を入力しなければならない解錠できないような特殊なクレセントやレバーハンドル等が設置されていないもの（フロート板ガラス6.0mm以下＋PVB30mil以下＋フロート板ガラス6.0mm以下、網入板ガラス6.8mm以下＋PVB30mil以下＋フロート板ガラス5.0mm以下、フロート板ガラス6.0mm以下＋エチレン酢酸ビニル共重合体中間膜（以下「EVA中間膜」という。）（株式会社ブリヂストン製のものに限る。以下同じ。）0.4mm以下＋PETフィルム0.13mm以下＋EVA中間膜0.4mm以下＋フロート板ガラス6.0mm以下、フロート板ガラス6.0mm以下＋EVA中間膜0.8mm以下＋フロート板ガラス6.0mm以下、網入板ガラス6.8mm以下＋EVA中間膜0.4mm以下＋PETフィルム0.13mm以下＋EVA中間膜0.4mm以下＋フロート板ガラス5.0mm以下、網入板ガラス6.8mm以下＋EVA中間膜0.8mm以下＋フロート板ガラス5.0mm以下）
- キ カ以外の合わせガラス入り窓等で、当該ガラスを一部破壊することにより、外部から開放することができ、窓に設置される鍵（クレセント錠又は補助錠をいう。）は2以下で、別個の鍵を用いたり暗証番号を入力しなければならない開錠できないような特殊なクレセントやレバーハンドル等が設置されていないもののうち、バルコニー、屋上広場等の破壊作業のできる足場が設けられているもの（フロート板ガラス5.0mm以下＋PVB60mil以下＋フロート板ガラス5.0mm以下、網入り板ガラス6.8mm以下＋PVB60mil以下＋フロート板ガラス6.0mm以下、フロート板ガラス3.0mm以下＋PVB60mil以下＋型板ガラス4.0mm以下）
- ク ポリエチレンテレフタレート（以下「PET」という。）製窓ガラス用フィルム（JIS A 5759に規定するもの。以下同じ。）のうち、多積層（引裂強度を強くすることを目的として数十枚のフィルムを重ねて作られたフィルムをいう。以下同じ。）以外で、基材の厚さが100μm以下のもの（内貼り用、外貼り用は問わない）をアからキのガラスに貼付したもの
- ケ 塩化ビニル製窓ガラス用フィルムのうち、基材の厚さが400μm以下のもの（内貼り用、外貼り用は問わない）をアからカのガラスに貼付したもの
- コ PET製窓ガラス用フィルムのうち、多積層以外で、基材の厚さが100μmを超え400μm以下のもの（内貼り用、外貼り用は問わない）をアからキまでのガラスに貼付したもので、バルコニー、屋上広場等の破壊作業のできる

足場が設けられているもの

サ PET製窓ガラス用フィルムのうち、多積層で、基材の厚さが 100 μm以下のもの（内貼り用、外貼り用は問わない）をアからキまでのガラスに貼付したもので、バルコニー、屋上広場等の破壊作業のできる足場が設けられているもの

シ 屋外から常時手で解錠できるサムターン付軽量シャッター

(5) 次の構造の開口部は、代替開口部として扱えないものであること。◆

ア 網入板ガラス、線入板ガラス、合わせガラス又は倍強度ガラスのはめ殺し窓等

イ 屋外から開放できない鉄製の扉

ウ 格子、ルーバー、広告物、看板、日除け、雨除け、ネオン管灯設備等により所定の寸法のとれない窓等

エ PET製窓ガラス用フィルムのうち、多積層以外で、基材の厚さが 100 μmを超え 400 μm以下のもの（内貼り用、外貼り用は問わない）を（4）イからキまでのガラスに貼付したもので、バルコニー、屋上広場等の破壊作業のできる足場が設けられていないもの（イ及びウのうち、当該ガラスを一部破壊することにより外部から開放することができるもの並びにエを除く）

オ PET製窓ガラス用フィルムのうち、多積層で、基材の厚さが 100 μm以下のもの（内貼り用、外貼り用は問わない）を（4）イからキまでのガラスに貼付したもので、バルコニー、屋上広場等の破壊作業のできる足場が設けられていないもの（イ及びウのうち、当該ガラスを一部破壊することにより外部から開放することができるもの並びにエを除く）

(6) 代替開口部相互間の距離は、おおむね 10m以内とすること。

※ 建基政令では壁面を 10m以内ごとに区分し、代替開口部を当該区分内の随意的な位置に設けることとなっている。

(7) 代替開口部には、赤色反射塗料による一辺が 20cm の逆正三角形の表示を設けること。ただし、代替開口部であることが明らかであり、かつ、代替開口部としての機能が確保される場合を除く。

(8) 代替開口部の取扱いについては、第 9－1 表を参考とすること。

4 進入口の間隔、構造◆

(1) 進入口の間隔は次によること。

ア 間隔の算定にあたっては、進入口の設置を要する各壁面を通算できるものであること。

イ 進入口の間隔は、40m以下とし、かつ、進入口の設置を要する外壁面と設置を要しない外壁面との境界から 20m以内とすること。

(2) 進入口の構造

3（4）に掲げる窓は、建基政令第 126 条の 7 第 4 号に定める「破壊して室内に進入できる構造」として扱えるものであること。

(3) バルコニーは次によること。

ア バルコニーには手すりを設け、その高さはおおむね 1.1mとすること。

イ 建基政令第 126 条の 7 第 1 号から第 7 号までに適合する屋外階段の踊り場又

は外気に開放された廊下、ベランダ等は、バルコニーとして扱えるものであること。

5 共同住宅の取扱い等

共同住宅が次のいずれかによる場合は、進入口を設けたものとして取り扱うことができる。この場合、(1) から (3) までに係る外壁面以外の面については、進入口を設けないことができるものであること。(昭和 46 年 11 月 30 日付け建設省住指発第 826 号)

- (1) 各住戸に進入可能なバルコニーが設けられていること。
- (2) 階段室型共同住宅にあつては、各階段室に進入可能な開口部が設けてあること。
- (3) 廊下型共同住宅にあつては、廊下、階段室その他これらに類する部分に進入可能な開口部を各住戸からその一に至る歩行距離が 20m 以下となるように設けてあること。

第9－1表 非常用進入口（代替開口部）の判定としての開口部構造の取扱一覧表

ガラスの種類	ガラス全体の厚さ	開口部の種類	非常用進入口（代替開口部）の判定			
			足場有り	足場無し		
				窓ガラス用フィルムなし	窓ガラス用フィルムA	窓ガラス用フィルムB
普通ガラス フロート板ガラス 磨き板ガラス 型板ガラス 熱線吸収板ガラス 熱線反射ガラス	厚さ 8.0mm以下 (厚さが6mmを超えるものは、ガラスの大きさが概ね2㎡以下かつガラスの天端の高さが、設置されている階の床から2m以下のものに限る。)	引き違い戸	○	○	○	△
		F I X	○	○	○	×
網入板ガラス 線入板ガラス	厚さ 6.8mm以下	引き違い戸	△	△	△	△
		F I X	×	×	×	×
	厚さ 10mm以下	引き違い戸	△	×	×	×
		F I X	×	×	×	×
強化ガラス 耐熱板ガラス	厚さ 5.0mm以下	引き違い戸	○	○	○	△
		F I X	○	○	○	×
合わせガラス (2以下の鍵(クレセント錠又は補助錠をいう。))を開錠することにより、開放することができるもの)	フロート板ガラス6mm以下+PVB(ポリビニルブチラル)30mil(膜厚0.76mm)以下+フロート板ガラス6mm以下	引き違い戸	△	△	△	×
		F I X	×	×	×	×
	網入板ガラス6.8mm以下+PVB(ポリビニルブチラル)30mil(膜厚0.76mm)以下+フロート板ガラス5mm以下	引き違い戸	△	△	△	×
		F I X	×	×	×	×
	フロート板ガラス5mm以下+PVB(ポリビニルブチラル)60mil(膜厚1.52mm)以下+フロート板ガラス5mm以下	引き違い戸	△	×	×	×
		F I X	×	×	×	×
	網入板ガラス6.8mm以下+PVB(ポリビニルブチラル)60mil(膜厚1.52mm)以下+フロート板ガラス6mm以下	引き違い戸	△	×	×	×
		F I X	×	×	×	×

ガラスの種類	ガラス全体の厚さ	開口部の種類	非常用進入口（代替開口部）の判定			
			足場有り	足場無し		
				窓ガラス用フィルムなし	窓ガラス用フィルムA	窓ガラス用フィルムB
合わせガラス (2以下の鍵(クレセント錠又は補助錠をいう。)を開錠することにより、開放することができるもの)	フロート板ガラス3mm以下+PVB(ポリビニルブチラル)60mil(膜厚1.52mm)以下+型板ガラス4mm以下	引き違い戸	△	×	×	×
		F I X	×	×	×	×
	フロート板ガラス6mm以下+EVA(エチレン酢酸ビニル共重合体)中間膜0.4mm以下+PETフィルム0.13mm以下+EVA中間膜0.4mm以下+フロート板ガラス6mm以下	引き違い戸	△	△	△	×
		F I X	×	×	×	×
	フロート板ガラス6mm以下+EVA(エチレン酢酸ビニル共重合体)中間膜0.8mm以下+フロート板ガラス6mm以下	引き違い戸	△	△	△	×
		F I X	×	×	×	×
	網入板ガラス6.8mm以下+EVA(エチレン酢酸ビニル共重合体)中間膜0.4mm以下+PETフィルム0.13mm以下+EVA中間膜0.4mm以下+フロート板ガラス5mm以下	引き違い戸	△	△	△	×
		F I X	×	×	×	×
	網入板ガラス6.8mm以下+EVA(エチレン酢酸ビニル共重合体)中間膜0.8mm以下+フロート板ガラス5mm以下	引き違い戸	△	△	△	×
		F I X	×	×	×	×
倍強度ガラス	—	引き違い戸	×	×	×	×
		F I X	×	×	×	×
複層(ペア)ガラス	構成するガラスごとに本表(網入板ガラス及び線入板ガラスは、厚さ6.8mm以下のものに限る。)により評価し、全体の判断を行う。					

[備考]

- 1 ガラスの厚さの単位は、JISにおいて用いられる「呼び厚さ」の「ミリ」を用いる。
- 2 「足場有り」とは、避難階又は外部バルコニー、屋上広場等破壊作業のできる足

場が設けられているものをいう。またバルコニーとは、建基政令第 126 条の 7 第 5 号に定める構造以上のものをいう。

- 3 「引き違い戸」とは、片開き、開き戸を含め、通常は部屋内から開放でき、かつ当該ガラスを一部破壊することにより、外部から開放することができるものをいう。
- 4 「F I X」とは、はめ殺し窓をいう。
- 5 「耐熱板ガラス」は、耐熱板ガラス品質規格（低膨張防火ガラス、耐熱強化ガラス及び耐熱結晶化ガラス）によるものをいう。
- 6 「合わせガラス」、「倍強度ガラス」は、それぞれ JIS R 3205 及び JIS R 3222 に規定するものをいう。
- 7 「1mil」は、1/1000 インチ（約 0.0254mm）をいう。
- 8 「窓ガラス用フィルムなし」は、P E T 製窓ガラス用フィルム（JIS A 5759 に規定するもの。以下同じ。）等を貼付していないガラスをいう。
- 9 「窓ガラス用フィルム A」は、次のものをいう。
 - （1）P E T 製窓ガラス用フィルムのうち、多積層（引裂強度を強くすることを目的として数十枚のフィルムを重ねて作られたフィルムをいう。以下同じ。）以外で、基材の厚さが 100 μm （0.1mm）以下のもの（内貼り用、外貼り用は問わない）を貼付したガラス
 - （2）塩化ビニル製窓ガラス用フィルムのうち、基材の厚さが 400 μm 以下のもの（内貼り用、外貼り用は問わない）を貼付したガラス
 - （3）低放射ガラス（通称 Low-E 膜付きガラス）（金属又は酸化金属で構成された薄膜を施した低放射ガラスであること。）
- 10 「窓ガラス用フィルム B」は、次のものをいう。
 - （1）P E T 製窓ガラス用フィルムのうち、多積層以外で、基材の厚さが 100 μm を超え 400 μm 以下のもの（内貼り用、外貼り用は問わない）を貼付したガラス
 - （2）P E T 製窓ガラス用フィルムのうち、多積層で、基材の厚さが 100 μm 以下のもの（内貼り用、外貼り用は問わない）を貼付したガラス
- 11 「足場有り」欄の判定は、窓ガラス用フィルムの有無にかかわらず、全て（窓ガラス用フィルム無し、窓ガラス用フィルム A、窓ガラス用フィルム B）同じ判定であること。
- 12 合わせガラスに用いる E V A 中間膜は株式会社ブリヂストン製のものに限る。

[凡例]

○…開口部として取り扱うことができる。

△…ガラスを一部破壊し、外部から開放できる部分（引き違い戸の概ね 1 / 2）

×…開口部として取り扱うことができない。